



子どもの「かみつき」

1歳半～2歳半の子ども達の成長の過程には、「かみつき」というトラブルがよく出てきます。かんだ方もかまれた方もつらい気持ちになりますね。

かみつく行動自体はよくないことですが、かみついた行動の裏には、子どもたちのいろいろな思いがあります。

気持ちを言葉で表現できないから？

関わりかたがわからないから？



この年齢の子ども達は、自我が芽生えてきて“自分が！”“～したい”という気持ちが強くなります。

そして、お友だちのすることにだんだんと興味が出てきます。

「〇〇が楽しんでいるデンシャをさわりたい」、
「一人で楽しんでいるんだからそばにこないで～」などの
気持ちが“グッと”強くなった時に、まだ言葉で「かして」と伝えたり、譲り合ったりすることができないので、おもちゃの取り合いの中で、「かみつく」という行動に出る子もいます。



こういう時は、子どもを叱りたい気持ちもあると思いますが、まずは大人が子どもの気持ちに寄り添った声かけをしましょう。

「このデンシャで遊びたかったのね。かしてって一緒に言いに行こうか。」
「一人でゆっくり遊びたかったんだね。もうちょっと待っててほしかったね。」
と共感し、思いがかなえられなかった悔しさを受けとめることが大切です。
そうすることで、子どもは「わかってもらえた！うんうん、そうなんだよ」と安心し、気持ちが落ち着いてくるようです。

日頃から、子どもの感情や行動に寄り添いながらやりとりしていくことで、子どもは自分の思いを表現していいんだということに気づいていきます。



「かみつき」の行動だけに目をむけるのではなく 楽しい遊びを一緒にしましょう

1歳半～2歳半の子ども達がみんなて遊ぶ時には、子どもから目を離さないように気をつけながらも気持ちが発散できるような、身体を使った遊びをするのもいいですね。たとえば、音楽に合わせて踊ったり追いかけて等はいかがでしょうか。

「一緒に～しておもしろかったね」「また、今度～して一緒にあそぼうね」などと楽しかったことを大人も子どもたちと共感し、楽しい経験を増やしていくことで「かみつき」を減らすことにつながっていきます。

「お互い、関わりあって育てほしいね」

トラブルになると大人は「かむんじゃないか?」「けんかするのではないか?」と友だちをちょっと遠ざけたりして、ピリピリした空気になることもあり、大人も子どももお互いにしんどい思いをします。自分の子どものことだけではなく、相手のお友だちのことも“大切に思っているよ”という気持ちでお母さんも中に入って一緒に遊んでいくと、相手にもお母さんの思いは通じるでしょう。

「取り合いばかりしていたのに、この頃一緒に遊んでいるわ。」と嬉しい姿が見られることもあります。

大人たちに見守られながら、子ども達がほっと安心して楽しく遊べる空間がもてるといいですね。



思いが伝えられず激しく泣いてしまって 言葉をかけられそうにない時は?

だっこするだけで十分です。だっこされた安心感の中で子どもは、自分の気持ちを受けとめてもらえたと感じることができます。

子どもの成長の中で「～したい」という気持ちを抱き、自分の思いを表現できることが大切ですが、「どこまで受けとめたらいいの?」「わがままになるんじゃない?」と不安になりますね。地域子育て支援拠点や保育所(園)に遊びに行つて「こんな時どうしたらいいの?」と気軽に相談してくださいね。同じ悩みを持っているお母さんが近くにいるので交流もできますよ。

